

町長インタビュー

## 就任1年を 振り返って



吉田栄光町長に、就任1年を振り返って  
いただきました。

### 今後の取り組みについて、お話しを聞かせてください。

もちろん、医療や教育など町内の生活環境の充実が最優先事項です。

決定した情報でなければ公表することができないので、町民の皆さんに進捗をご報告することができないのですが、担当の役場職員を含めて様々なアイデアを駆使して取り組んでいますので、成果が出るまで、もうしばらくお時間をいただければと思います。

そして、子どもや子育て支援に関しては、さらに充実させていきたいです。

現在、にじいろこども園、創成小中学校には、100人を超える子どもがいます。避難指示解除から6年が過ぎ、たくさん子ども達の笑顔が戻ってきてくれました。これは我々大人たちにとっても大きな力になっています。先生の数が多いとかこの地域の先進的な特性にも起因していると思いますが、子どもの増加は保育士、先生方による教育・保育、授業の評価が高いということです。これから小規模校としてのメリットを最大限に活かし、国際教育や農業、伝統文化体験授業など質の高い教育の実現に取り組んでいきたいと思っています。また、子育てしやすい環境のためには、小児科医療への不安も解消していきたいです。

それから復興事業への財源を確保していくために、引き続き国や県と協議していきますが、町の将来に向けて移住施策や企業誘致など、将来に向けた財政基盤を作り上げることに力を入れていきたいと思っています。

### 最後に町民の皆さんへメッセージをお願いします。

震災前のような町を取り戻すためには、長い時間が必要です。しかし、次の世代に生きる子供たちのため、未来に向かって進むしかありません。

私の仕事は、町民の方々が幸せに暮らせる町をつくることです。中心市街地の整備も水素エネルギーの活用も医療を充実させることも、すべては町の発展のため、未来のためです。

しかし、震災によって未だに淋しい思いをされている方々がたくさんいるのだという現実には、いつも頭から離れません。これからも、そうした一人ひとりの気持ちに寄り添いながら、町長としての責務を果たしていきたいと思っています。

8月はお盆です。離れて暮らすご家族が里帰りして、一緒にご先祖様を静かに迎える。そんな普通の暮らしを取り戻すために、これからも町民の皆さんとともに頑張っていきます。

問 総務課秘書係 TEL 0240(34)0239

### 昨年8月5日に就任され、間もなく1年になります。 率直な感想を聞かせてください。

私はこれまで16年間県議会議員として働いてきましたが、昨年、浪江町の町長という立場に変わり、町長とは、多くの町民の方々の気持ちを背負った非常に重い職務だと感じています。震災によってバラバラとなった町民は、帰還した方、迷っている方、帰ることができない方等々、立場や状況が様々です。これまでも故郷の復興のために力を注いできましたが、町長となって、より一層「ふるさと浪江、を何としても復興するという想いが強くなりました。

### 多くの出来事がありました。特に印象に残っていることは何ですか？

まず、就任直後に正式決定となった「福島国際研究教育機構(F-REI)」ですね。

この施設によって浪江の未来が変わります。歴史に残る瞬間に立ち会えたと思っています。しかし、広域的な復興の核となるべきこの施設は過去に類をみないものであり、立地町としての責任は重大です。必ず成功させなければならない。これから、しっかりと研究者の方々に住み良い環境を整えていくつもりです。そして、こうした方々と浪江町民とが共感できるような復興まちづくりを進めていきます。

次に水素ですね。アメリカまで行ってきましたから。

水素への思いですが、今、世界中でエネルギーの大転換が起ころうとしています。こうした変革期に復興を進めている我々は、やはり再生可能エネルギーの活用というのは必要な取り組みなのです。その上に立って、今回のカルフォルニア州ランカスター市、ハワイ州ハワイ郡との連携は、世界をみても先進的であり、浪江町の発展に必ず寄与するものになると思っています。

そして、もう一つは帰還困難区域のことです。

3月末に特定復興再生拠点区域の避難指示が解除されました。しかし以前から言っていますが、今回の解除は「一歩前進」にすぎないということです。町内全域の避難指示が解除されることが私の目的、使命だと思っていますので、できるだけ早く避難指示を解除し、震災前のような町に戻したい。そういう思いで、これからも努力を続けてまいります。